

## 第3回所長講話 「積小為大」の心の気づきで考え行動し子どもを支援できる教師を目指そう

9月30日(水)、所内研修の中で2ヶ月に1回のペースで実施している「所長講話」の第3回目は、「『積小為大』の心の気づきで考え行動し子どもを支援できる教師を目指そう」という講話題で、お話しいただきました。

屋良朝苗伝、東京大学卒業式告示、デザインの力で新時代を切り開く、でもね「このヒトデにとっては大きな違いだろうね」、二宮金次郎(尊徳)の「積小為大」の精神を大切に、等のいくつかの文を読み上げながら、それに共通する、知識だけを積み重ねているだけでなく、それを活用して小さいことを積み重ねていくと大きなことにつながっていくことや、身の周りの小さなことに気づき考え行動することが物事の基本であることを熱く語られました。そして、今日、当研究所を巣立つ研究員の皆さんに、「課題は学校(子ども)にあり解決策も学校(子ども)にある。だから子どもに寄り添う教師になってほしいと」締めくくりました。

## 【所長講話の主な内容】

## 1 屋良朝苗伝(沖縄の生んだ偉大な教育者)

- ・これでは勉強にも差し障りがくるだろう。なんとかこの水くみから生徒を救う道はないものだろうか
- ・いつまでもやれるという方法ではないが、やれる間はやろう

## 2 東京大学卒業式告辞

- ・専門的能力と豊かな社会的教養を兼ね備えた人間
- ・そのような人間になるための潜在力の育成
- ・生涯を通じての努力と刻苦によって初めて達成されるべきもの。
- ・カリフォルニア大学の大学院生の行動
- ・バス停留所のおじいさんとおばあさんの行動
- ・何かのきっかけがあって小さな雪が転がり出すとそれが次第に発達して雪崩になる

## 3 デザインの力で新時代を切り開く(本質を見抜く)

- ・それでは本質的なことには向かわずどんな表現を作ればインパクトがあるのかという表層的な見せ方ばかりを考えていた
- ・どうやって斬新なアイデアを生み出すのかイメージを持ち続ける答えは常に相手の中にある。対象と真剣に対峙すれば必ず答えは見つかる
- ・本質を見抜く

前提を疑う そもそもこれでいいのか?

人の話を聞く 相手の言わんとする本意をきちんと聞き出す

問題を洗い出し取り組むべき課題を見つける

常にニュートラルで邪心が入るとだめ

## 4 でもね「このヒトデにとっては大きな違いだろうね」

## 5 二宮金次郎(尊徳)の「積小為大」の精神を大切に!

- ・補助金を交付すればするほど退廃していく
- ・家の掃除・草刈り・一畝 一畝田畑を耕す
- ・草鞋を作りみんなに配布 苗種を植えて油を作る 雨の中早朝から働く
- ・村人が協力して村を立て直した



写真1 所長講話



写真2 所長講話の様子



写真3 所長を囲んで

【教育研究員の感想】（研修日誌から）

所長のお話の中で、小さな事でも積み重ねていくことで大きなことに繋がるという「積小為大」という言葉に出会うことが出来ました。幼稚園の子ども達との一つ一つのかかわりを丁寧に、その子に寄り添って行うことの大切さを改めて学ぶことができました。二宮金次郎も村の立て直すまで何年もの月日がかかりましたが、子どもに丁寧に接していくことは、すぐに結果として表れなくても、いつか必ず実を結ぶと信じて教師は子ども達と向き合うことが大切であると感じました。「前提を疑う」ということも今日心に残った言葉です。確信や自信を持って物事に臨むことも大切ですが、「本当にそれで良いのか」ともっと思考を深めてみることで、更に成果を得られることもあるのだということ学びました。課題の解決策は、子どもにあるということ胸に刻み、子どもに寄り添うことを心がけたいと思います。（金城さくら）

小さくても正しい行いを積みかさねることで物事の本質がみえてくるのだと思います。わかりきっていることと、それを実際に実践することは別なんだと感じました。

人の思いの力の強さに感心しました。一人の積小が多くの人を動かし、大きな輪になり広がることを考えると、学校現場も大切なのは人なんだと感じました。チーム真壁の歯車として状況や職員に合わせて対応し、同じベクトルへと向けられるよう努力していきたいと思います。そこで1番大切なのは「楽しむこと」を忘れてはいけないと感じています。一人で出来ること、一人だけでは出来ないことの違いを心にとめて頑張りたいと思います。（大城厚）

3回の所長講話を通して、教師のあるべき姿やこれから求められる教師、目指す姿、忘れてはいけない心等、今後の教師としての大きな示唆を頂くことができました。

今日の講話では、相手を思いやり、一人の力は小さいかもしれないが、何が出来るかを考え、自分ができることをやり続けることの大切さを改めて感じました。研修を通して、これまでの実践を立ち止まって考え、課題もたくさん見つけ、その解決に向けて歩き始めようとしています。明日からの実践において、子どもたちの声を聞き、真剣に向き合い、悩みながらも一步一步前に進めるよう頑張っていこうと決意しました。所長がいつもおっしゃっているように、目の前の子ども一人一人に向き合い、個に応じた適切な支援や指導、子どもを理解できる教師として、小さな努力を積み重ね、本質を見抜き、子どものために日々、楽しみながら歩んでいきたいと思いました。（長門照乃）

講話を聞いて「本質を見抜く」ことを今回の研究でやったのではないかと思います。教科の特性をしっかりと把握することで様々なアイデアを授業に活かすことができたと思います。これからは体育だけではなく、他教科の特性をしっかりと把握した上で、教材研究をやっていききたいと思います。私はこれまで「積小為大」という言葉を聞いたことはありましたが、意味や由来はわかりませんでした。今日のこの話を聞いて、「積小為大」の言葉のすばらしさを知りました。明日から現場に戻りますが、日頃から小さいことをしっかりとやっていくことで本質に気づき、子どもたちとしっかりと対峙して頑張っていきたいと思います。（具志堅智美）

何事も小さな事からコツコツと。よく言われることですが、その大切さを感じました。

自分が半年間やってきたことを現場で続けていくことで何かが変わるかもしれない。池に投げられた石のように、一石を投げられたらと思います。

「過去の習慣や常識ばかりにとらわれては、絶対にそれ以上のアイディアは生まれません」という言葉から、自分が今回進めてきた研究そのものだと思います。今までの授業のありかたを見直し、改善していかなければならないと思います。そして、湯澤先生にも言われたのですが、物事の本質を見抜くこと、つまり、表面的に教えるのではなく、その授業の本質をしっかりと見極め、それについて授業を行っていくことを考えていかなければならないと思いました。この本質を見抜くことが簡単ではないので、今後も自分で研修し続けていきたいです。（古屋誠一）